

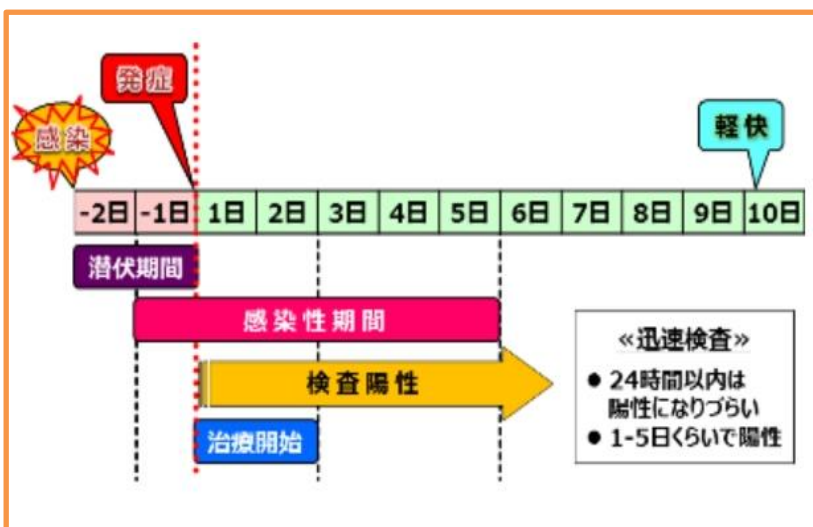
病児保育室「あんず」のチョットアノネ

No. 89 (2024. 10. 20.)

テーマ：インフルエンザに注意

インフルエンザの患者さんはすでに発生しています

今年はインフルエンザの流行の兆しがあり、亶理郡内でもインフルエンザの患者さんがみられ始めました。主に成人に多く見られますが、小学生や中学生にも見られており注意が必要です。一般には季節性インフルエンザは日本では例年 12 月～3 月が流行シーズンです。流行のピークは来年の 1 月から 2 月ころになると予想されます。インフルエンザと普通の風邪は違います。普通の風邪の多くは、のどの痛み、鼻汁、くしゃみや咳等の症状が中心で、全身症状はあまり見られません。しかし、インフルエンザでは高熱がみられ、**全身症状を伴い**、重症化する危険性があり注意が必要です。インフルエンザの主な症状は高熱、頭痛、関節痛、筋肉痛、全身倦怠感等の症状が急速に現れ、普通の風邪のように、のどの痛み、鼻汁、咳の症状も見られます。異常行動も見られることもあります。子どもではまれに急性脳症を、高齢者では肺炎を伴うなど重症になることがあります。



インフルエンザの一般的な経過

インフルエンザの重大な2つの合併症

それは、**インフルエンザ肺炎**と**インフルエンザ脳症**です。インフルエンザに罹患後、咳が激しく熱も続き、呼吸が苦しいような状態があれば、インフルエンザ肺炎の可能性がります。血液検査やレントゲン検査により診断しますが小児よりは高齢者で死亡率が高いので注意が必要です。インフルエンザ脳症の症状は急性の意識障害が 100%、痙攣(けいれん)が約 80%、異常言動・行動が約 20～30%との報告があり、このような症状があらわれた場合は、直ちに主治医の先生(休日夜間は急患診療所)の診察を受ける必要があります。**脳症を起こしやすいと言われている薬剤**があります。アスピリン、サリチル酸製剤(PL顆粒など)、ジクロフェナクナトリウム(ボルタレンなど)、メフェナム酸(ポンタールなど)ですが、解熱剤として使用されることがありますから、使用を避けるようにしてください。なお、合併症の予防にはインフルエンザワクチン(最近は点鼻液のワクチンもあります)が大変有効です。

現在流行している病気は何ですか？

宮城県内では：第1位 手足口病 第2位 新型コロナ、 第3位 マイコプラズマ肺炎
亶理郡内では：第1位 手足口病、 第2位 マイコプラズマ感染症、 第3位 溶連菌感染症

大友医院病児保育室「あんず」より

次第に寒くなり秋らしい季節になりました。宮城県内では7週間にわたり新型コロナウイルス感染症が減少していますが、一時減少傾向にあった手足口病が増加し大流行になっています。また、小学生を中心にマイコプラズマ肺炎が増加してきています。インフルエンザもみられており注意が必要です。この時期は生活リズムが乱れがちになり、体調も不安定になりやすくなっています。元気に過ごすために、食事、運動、睡眠のバランスを大切にいきましょう。

病児保育室「あんず」：電話 0223-35-6455

